



乾杯を
もっとおいしく。

サッポロビール株式会社

サッポロビール北海道工場に太陽光発電設備を導入

2022年12月より本格稼働開始し、CO2排出量を年間で約840t削減



設備設置工事中の北海道工場

サッポロビール（株）は、脱炭素社会の実現を目指した取組みの一環として、12月1日に北海道工場へPPAモデル（注1）による太陽光発電設備（注2）を導入しました。

導入設備は太陽光パネル3,030枚、総パネル面積は約7,300平方メートルになり、サッポログループ内では最大規模の設備となります。12月から設備の本格稼働を開始し、設備稼働による年間発電量は約1,539MWh、CO2排出量は年間約840t削減される見込みです。この年間発電量、CO2排出削減量はどちらもサッポログループ内では最大です。

当社の工場では、群馬工場尾島事業所が2022年3月よりサッポログループで初めてPPAモデルによる太陽光発電設備を稼働（注3）しており、年間で約330tのCO2排出量削減に貢献しています。北海道工場はサッポログループ内2例目となります。

サッポログループは、本年11月にサステナビリティ重点課題の全面的な見直しを発表しました（注4）。世界共通の喫緊の課題である「脱炭素社会の実現」は最重点課題のひとつに掲げており、その解決に向けた企業としての役割を強く認識し、SBT認証レベルでのCO2排出削減目標に取り組むこととしています。

サッポログループは、サステナビリティ方針「大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。」のもとに、サステナビリティ重点課題に対する目標達成に向けて取り組みを進め、「持続可能な社会の実現」と「グループの持続的な成長」の両立を目指します。

（注1）発電事業者が事業者の敷地内に太陽光発電設備を発電事業者の費用により設置し、発電された電気を事業者に供給するモデル。

（注2）太陽光発電設備の設置会社：セントラル石油瓦斯株式会社（本社・東京都中央区）。

（注3）https://www.sapporobeer.jp/news_release/0000014487/

（注4）<https://www.sapporoholdings.jp/news/dit/?id=8991>

以上